

改革すべきは改革し、継続すべきものは更に磨き上げ
充実させるといった柔軟な再構築の視点に立ち、
まちづくりに取り組んでまいりました

新型コロナウイルス感染症 に対する取組

新型コロナウイルス・オミクロン株が日本全国で猛威を振るい、2月20日までの間、県内全域を対象区域に「まん延防止等重点措置」が適用され、県の感染警戒レベルも6に引き上げられました。これまでも新型コロナウイルス感染対策を最優先課題として取り組んでまいりましたが、改めて気を引き締め、市民の皆さまと一丸となってこの状況乗り越えていきたいと考えています。さらに、3回目のワクチンを速やかに接種できるように、引き続き、地元医師会をはじめ、関係機関のご協力をいただきながら、市民の皆さまの安心につながるよう全庁体制で取り組みます。

資源循環型施設建設に向けた取組

資源循環型施設建設対策連絡会や資源循環型施設整備協議会との

「からだも心も元気な健康都市上田の実現」

健康プラザを拠点としてさまざまな世代に応じた各種がん検診や特定健診などの受診率向上を図るほか、楽しみながら健康づくりを行える健康づくりチャレンジポイント制度の充実や健康ウォーキング事業などを推進してきました。食育の推進については、上田市食育推進プロジェクトにおいて、上田の「食」を通じ、心豊かで健康な生活の実現を目指し各種施策に取り組んでいます。

3月議会初日に提案した議案の概要

- 条例案(6件)
 - 一部改正/上田市積立基金条例中一部改正 ほか
- 令和3年度補正予算案(5件)
 - 一般会計(1件)、特別会計(1件)、企業会計(3件)
- 令和4年度当初予算案(12件)
 - 一般会計(1件)、特別会計(6件)、企業会計(5件)
- 事件決議案(5件)
 - 南庁舎改修建築主体工事請負変更契約の締結について ほか

行政管理課 23-5163

懇談会などにおいて、排ガスの自主基準値など施設の基本事項について話し合いを続けています。上田地域広域連合では、環境影響評価の方法書の作成を進めており、今後、地域住民説明会などを開催し、「ご意見をお聴きしながら信頼関係を大切に取り組みます。生ごみを堆肥化する」「有機物リサイクル施設」の整備については、丸子地域の陣場地区周辺自治会への説明会を行いながら、陣場地区有機物リサイクル施設調整会議を設け、対話を重ねてきました。現在、候補地周辺の環境の現況調査を行っており、この調査状況などを地域の皆さまと共有し、ご理解をいただきながら丁寧に計画を進めます。

「上田市スマートシティ化推進計画」の取組

「上田市スマートシティ化推進本部」の立ち上げやロードマップの策定に加え、「上田市スマートシ

より一層推進し、併せてこころや歯の健康についてもきめ細かな施策を展開していきます。

子どもは地域の宝、すくすく育つ安心子育てのまちづくり

子育て支援センターでは、感染予防対策を講じた安全・安心な親子の交流の場として、情報提供や相談体制、子育て講座の充実を図っており、多様化する子育て世帯の抱える問題にも対応できる体制を確保しています。また、支援が必要な子育て家庭などが社会から孤立することがないように、母子保健コーディネーターと子育て支援コーディネーターが機能的に運用する「子育て世代包括支援センター」を充実させ、妊娠期から出産、子育てまで切れ目のない支援を強化し、取り組んでいます。今後、上田市で子どもを育てる喜びを多くの皆さまに実感していただける社会の実現を目指し、子育て支援施策の充実に取り組みます。

個性が発揮され、次世代へつなげる教育支援

地域の歴史や文化、産業などを学ぶことで地域に対する誇りや愛

ティ化推進パートナー制度」を創設し、民間の企業などとの連携促進にも力を入れてきました。また、公共料金のキャッシュレス決済など市民サービスの向上に資する取組のほか、民間企業などの協力の下、公共交通キャッシュレス化推進プロジェクトや電動シェアサイクルなどの実証実験に着手するなど取組を着実に進めています。今後も「市民、地域、行政がデジタル化により密接につながる、共に創る未来都市★UEDA」の実現に向け取り組みます。

『つながり』と『多様性』を大切に市民総参加のまちづくり

新たな地域自治の仕組みである住民自治組織は、12の組織が設立され、それぞれの地域で主体的にまちづくりを進めていただいております。引き続き、全地域への設立を図り、多様な主体に参画・協働いただけるような体制づくりを着の醸成を図る「信州上田学」は、いずれの事業も参加者から好評を得ているところであり、引き続き、郷学郷就とシビックプライドの醸成につながるよう、市民の皆さまへの浸透や事業の効果的な展開を模索しながら継続的に取り組む必要があると考えています。

交流の推進、文化・芸術の再興、未来へ伝えるまちづくり

サントミューゼでは、交流文化芸術センターと美術館に運営協議会を設置し、運営について検証・検討を重ねてきました。また、地域の新進演奏家に活躍の舞台を提供するリサイクル事業のスタートや新国立劇場と連携・協力に関する協定の締結のほか、子どもアトリエ事業のプログラムの拡充などに取り組みました。

支援していきます。障がいのある無によって差別されることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指した取組として「上田市手話言語の普及及び視聴覚障害者等の意思疎通手段等の利用促進に関する条例」を制定しました。今後、人々がつながり、誰もが健康で幸福を感じ、活躍できる市を目指して各種施策に取り組みます。

人と自然にやさしい誰もが住みやすい環境のまちづくり

気候危機を市民の皆さまと共有し、対策に取り組むため、昨年2月に「上田市気候非常事態宣言」を表明後、上田市ゼロカーボンシティ推進本部を設置したことから、市民の皆さまとともに持続可能なまちづくりを推進します。

令和元年東日本台風災害や豪雨災害などに伴う市内の復旧状況は、着実に進んでいます。今後は、大規模災害時に市民の命を守り、致命的な被害を防ぐとともに、速やかな復旧・復興ができるよう、上田市国土強靱化地域計画を策定しました。また、地域防災力における共助の役割は大変重要なものであることから地域防災力の中核

史跡上田城跡の整備については、櫓の復元的整備に向け、文化庁と協議を進めるとともに、史跡上田城跡専門家会議を開催しながら慎重に進めています。日本遺産については、上田市日本遺産推進協議会を中心に、商業・観光関係団体、市内の大学などと緊密に連携を図り、多くの方々に「日本遺産のまち信州上田・塩田平」を誇りに感じていただけるよう、普及啓発や誘客に向けた活動を着実に進めます。

行財政改革の取組や庁舎の改修・改築など

限られた行財政資源を効果的・戦略的に活用するため、「第四次上田市行財政改革大綱」を策定し、「アクションプログラム」に全庁体制で取り組んでいます。コロナ禍において新たな行政需要が明らかになったことから、DX^{*}を推進し、社会情勢の変化に伴う市民ニーズを的確に捉え、持続可能で市民満足度の高い行政サービスの実現を目指し取り組みます。庁舎の改修・改築などについては、令和2年度に丸子地域自治センターの耐震工事が完了し、令和3年3月に武石地域総合センターが、その翌月の4月に新本庁舎が完成しました。いずれの庁舎もこ

を担う消防団や自主防災組織への育成・支援を継続的に取り組んでまいりました。今後も、関係機関と連携し、災害に強いまちづくりを積極的に進めます。

働く喜びにあふれ、産業がいきいき発展するまちづくり

新しい産業の創出と中小企業の経営力の強化については、「上田市商工業振興プラン」に基づき、創業支援や民間と連携した事業承継支援などに取り組みしてきました。

観光産業については、冬季の観光客に向けた市独自の取組として、市内スキー場や別所温泉、鹿教湯温泉などにおいて積極的な誘客促進事業を展開してまいりました。今後も市内各地の多彩な観光資源を有効活用した観光振興事業に取り組みます。

農林業振興については、「一人・農地プラン」の実践により、中心経営体へ農地集積を推進し、新規就農者の育成支援や持続的農業の実現に向けた農福連携事業に積極的に取り組むほか、森林経営管理制度により上田地域4市町村共同によるモデル実証事業を通じて、荒廃しつつある森林の整備に向けた取組を始めたいです。

これまで以上に丁寧できめ細かな行政サービスを提供できるよう、窓口業務を効率的・機能的な配置にしています。現在、旧本庁舎などの解体を進めるとともに、南庁舎の建物内部の大規模改修なども進めています。これまでと同様に日々の安全管理に充分配慮しながら工事を進めてまいります。

^{*}DX(デジタルトランスフォーメーション) ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること

提案説明はインターネットでも
ご覧いただけます。
動画・全文をご覧いただけます。



市ホームページ



動画はこちらから

